

令和 4 年 8 月 29 日現在

機関番号：32671

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2021

課題番号：17K00766

研究課題名(和文) 保育者養成におけるコンピテンス基盤型教育の提案

研究課題名(英文) Proposal of competency-based education in training childcare professionals

研究代表者

倉盛 美穂子 (Kuramori, Mihoko)

日本女子体育大学・体育学部・教授

研究者番号：90435355

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)： 養成段階修了時まで保育者志望学生に求める知識や技術(専門的力量)として、【子ども理解】(援理解・発達理解・省察と記録)、【生活援助の環境構成】(生活空間の構成・物の構成)、【遊びの環境構成】(遊びの展開や援助・遊びの内容)、【対人関係構築】(自他の思いの調整・基本的コミュニケーション・子ども同士の関係作りの援助)の4領域があることを見出した。これらの初任保育者の習得状況を調べると、初任保育者の習得レベルは、養成段階終了時の目標レベルには達していなかった。養成校としては、それらのギャップを埋める授業内容を考えていくことが課題である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

養成段階で獲得すべき最小限必要な専門的な知識や技術(コンピテンス)を「可視化」することができれば、達成すべき課題は学生たちにとってより鮮明で明解なものになる。さらに、可視化は保育に関する知識やスキルをどの程度獲得できたかを自己評価する時のみならず、保育者自身が自ら学び専門的に成長する存在としての在り方を考える枠組みを構築する一助となる。

研究成果の概要(英文)： The aim of our study was to examine the knowledge and skills (professional competencies) that are required in early childhood pre-service teacher education. A survey revealed four domains (“Understanding of children”, “Environmental setting to support daily life”, “Environmental composition of play”, and “Building interpersonal relationships”) with a total 10 factors as competencies required for early childhood teachers. Furthermore, it was found that some competencies trained in early childhood pre-service teacher education did not meet the level required for beginner teachers. From the standpoint of training schools of kindergarten and day care nursery teachers, we found that the challenge is to come up with course content that fills those gaps.

研究分野：発達心理学

キーワード：保育者養成 保育者志望学生 専門性 学び

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

保育への社会的ニーズの高まりと保育士資格が国家資格化されたことを背景に、保育者の専門性を明示化し、専門性を高めていくためのキャリアパスが提案されるようになった。保育者の専門性の明示化は、既に保育者として勤務する者にとっても、保育者を目指している養成段階の学生にとっても、自らのキャリアパスの道筋において何が習得済みで、今後何を学んでいけばよいのかを知る手がかりとなる。ただ、保育者志望学生は養成段階修了までに経験できることや学習できることに制約があることは否めない。では、保育者志望学生は養成段階終了時にどのような専門的力量を身につけておくことが望ましいのだろうか。

保育者養成校のカリキュラムは、講義・演習・実習・研究活動等から構成され、それらが有機的に関連した結果として、学生に専門的知識や技術の基礎が身につくことが想定されている。保育所保育指針は保育者の専門性に言及しているが、養成段階修了時の具体的な内容やレベルは、科目毎に養成施設の教員に一任されているのが実情である。加えて、保育を学ぶ過程や保育実践で生起する問題は、しばしば包括的で曖昧である。そのため、学生たちは、自分が学んだ内容が可視化できず、保育に必要な最低限の専門的知識や技術を学習した実感をもちにくい。自らの到達点や課題を把握することが難しいと、自律的な学習は生じにくいだろう。

養成校での保育者養成は完成教育ではなく、保育者としての専門的知識や技術の基礎を学ぶ期間であり、卒業後も学び続ける土台作りの時期である。近年、実習を軸に学生の学びを捉える試みは進んでいるが(全国保育士養成協議会, 2018) 学生が日々の授業や演習を通じて経験できる内容を踏まえながら、保育者養成段階で修得が期待される専門性の内容を整理した知見は見当たらない。保育者養成段階での専門性が明示できれば、学生にとっても養成校にとっても学習の有効な指標となるだろう。

### 2. 研究の目的

養成段階修了時までに保育者志望学生に求める知識や技術(専門的力量)を明らかにする。さらに、養成段階終了時の保育者志望学生の専門的力量レベルと初任保育者の専門的力量レベルとの関係を調べ、養成校の教育カリキュラムを検討する基礎的知見を得る。

保育者の専門性に関する先行研究(柏女, 2011 ; 倉盛・渡邊・津川・光本, 2014 ; 別惣・名須川・横川・鈴木・長澤・田中・飯塚, 2012) や、保育所保育指針・幼稚園教育要領を整理すると、保育者養成段階における専門性は、4つの領域「子ども理解」「生活援助と環境構成」「遊びの援助と環境構成」「対人関係構築」から捉えることが妥当である。調査1では、「子ども理解」「生活援助と環境構成」「遊びの援助と環境構成」「対人関係構築」の領域ごとに、保育者志望学生に求める知識や技術(専門的力量)の内容を調べ、保育力尺度を作成した。調査2では、初任保育者の専門的力量レベルが保育現場の期待レベルに達しているかどうかを明らかにするために、養成段階終了時の保育者志望学生の専門的力量と初任保育者の力量のレベルとの関係を専門的力量の内容ごとに検討した。最後に、保育者志望学生に期待する専門的力量と初任保育者の力量に差が大きかった内容に関する保育事例を作成し、学生の理解の特徴を調べた。

### 3. 研究の方法

予備調査 H 県 3 市の保育園 100 園、幼稚園 100 園、子ども園 10 園の実習指導担当者を対象に、「保育者志望学生に卒業までに身につけておいてほしい力」を尋ねる質問紙を郵送した。回答に際しては、「子ども理解」「生活援助の環境構成」「遊びの環境構成」「対人関係構築」の4領域を設定し、自由記述による回答を求めた。

本調査1 H 県内の公立私立保育所、幼稚園、認定こども園 210 カ所(各所 3 名分、合計 630 名分配付)に、「保育者志望学生が卒業までに身につけておいてほしい力」について尋ねた質問紙を郵送した。質問項目は、【子ども理解】は 18 項目、【生活援助の環境構成】は 27 項目、【遊びの環境構成】は 32 項目、【対人関係構築】は 29 項目から構成されている。

調査対象者である保育現場での指導担当者、保育者志望学生に、特に身につけておいてほしいと思う程度(「重要度」)を 4 件法(4.非常に重要、3.重要、2.少し重要、1.重要でない)で回答を求めた。加えて、初任保育者と接している、身につけていると思う程度(「実践度」)を 4 件法(4.身につけている、3.少し身につけている、2.あまり身につけていない、1.身につけていない)で回答を求めた。重要度評定得点は、養成段階を終えるまでに獲得することが求められる保育者としての専門的力量のレベルであり、実践度評定得点は、初任保育者の力量のレベルを表すものとする。実有効回答数は 265 名で、有効回答率 43.9%であった。内訳は以下のとおりである。性別については、男性 11 名、女性 254 名、設立種別は公立 171 所、私立 94 所、園の種別は保育所 185 園、幼稚園 68 園、認定こども園 12 園、平均経験年数は 20.5 年、標準偏差 10.1 年であった。

本調査2 初任保育者の専門的力量レベルが保育現場の期待レベルの差が大きかった内容を軸にした事例(保育者が個と集団への対応が求められる)を、保育者養成校の4年生 50 名に示し、保育者の対応として考えられることについて自由記述で回答を求めた。

#### 4. 研究成果

保育者志望学生に養成段階修了時まで求める知識や技術(専門的力量)の内容を明らかにするために、保育者志望学生用保育力尺度を作成し、因子構造を検討した(表1~4)。その結果、【子ども理解】領域は「援理解」「発達理解」「省察と記録」、【生活援助の環境構成】領域は、「生活空間の構成」「物の構成」、【遊びの環境構成】領域は「遊びの展開や援助」「遊びの内容」、【関係構築】領域は「自他の思いの調整」「基本的コミュニケーション」「子ども同士の関係作りの援助」の修得が保育学生に求められていることが明らかになった。

また、因子間の相関を調べてみると、多くに有意な正の相関がみられたことから、各専門的力量は相互に関連することが明らかになった。特に、「生活空間の構成」(【生活援助の環境構成】)は、「援理解」(【子ども理解】)、「遊びの展開や援助」(【遊びの環境構成】)、「子ども同士の関係作りの援助」(【対人関係構築】)と高い相関係数(0.8以上)がみられたことから、「生活空間の構成」に関する専門性は「遊びの展開や援助」や「子ども同士の関係作りの援助」と関連づけて学ぶことが効果的と言えるだろう。

保育者志望学生に卒業までに習得してほしい専門的力量レベル(重要度得点)と初任保育者の専門的力量レベル(実践度得点)の差を調べたところ、どの内容も有意差がみられた。特に、【対人関係構築】領域の「基本的コミュニケーションスキル」、【生活援助の環境構成】領域の「生活空間の構成」、【子ども理解】領域の「援理解」に関する専門的力量は、保育者志望学生に養成段階を終えるまでに獲得してほしいと思っているレベルと初任保育者のレベルの差が大きかった。全体的に、初任保育者の専門的力量のレベルは、保育現場が期待するレベルには達していないことから、養成校としては、ギャップを埋める授業内容を考えていくことが必要である。最終年度に、初任保育者の専門的力量レベルと保育現場の期待レベルの差が大きかった【生活援助の環境構成】領域の「生活空間の構成」に焦点を当てたケースを作成し、保育者養成大学の4年生の事例理解の特徴を調べた。学生の回答は子どもや保育者に言及することが多く、保育環境への言及は少なかったことから、保育環境の視点を醸成する教育内容の充実が必要だと思われる。養成校としては、養成段階修了時まで専門的な知識や技術(専門的力量)をある程度網羅できるような教育プログラムを立案し、実践していくことが僅々の課題である。

表1 子ども理解尺度の因子分析の結果(最尤法,プロマックス回転)

項目内容	1	2	3
<b>援理解</b>			
場面や子どもに応じた対応や言葉がけができる	.833	-.007	-.004
クラスが集まって遊ぶ場面などで、個人差に応じた援助を行うことができる	.773	.122	-.053
子どもの発達に応じて、援助の方法を変えることができる	.767	-.044	.151
子どもの気持ちに寄り添いながら必要な援助をすることができる	.699	-.210	.255
子どもの行動やつぶやきから、意欲や主体性を引き出すことができる	.576	.311	-.155
子どもの行動やつぶやきから、心情や意欲等の内面を推測することができる	.538	.142	.132
<b>発達理解</b>			
発達障害傾向のある子どもに対する援助方法について説明できる	-.020	.811	.013
子どもの姿をみて、今何が育っているかを言うことができる	.192	.764	-.151
発達障害の特性について説明できる	-.121	.713	.262
各年齢の子どもの発達の特徴を言うことができる	-.153	.679	.240
子どもの姿をみて、次の発達の姿を見通すことができる	.342	.587	-.181
クラス集団としてどのような子ども同士の関わりが育っているか述べるることができる	.352	.472	.077
<b>省察と記録</b>			
具体的な事実に基づいて考察したことを記録することができる	-.036	.053	.766
自分の実践を振り返り、反省点や成果を言うことができる	.031	-.061	.736
実践について意見交換することができる	.095	.025	.639
事例を記録するときに、具体的な事実が分かるように書くことができる	.175	.080	.379
発達や子どもの姿をふまえて指導計画を作成することができる	.114	.322	.367

表2 生活援助の環境構成尺度の因子分析の結果(最尤法,プロマックス回転)

項目内容	1	2
<b>生活空間の構成</b>		
発達に合わせた生活環境を作ることができる	.848	-.150
子どもが自分たちで生活の場を整えることができるよう援助することができる	.826	-.083
子どもが主体的に生活できるように環境を構成することができる	.814	-.129
実践しながら、その時の状況に応じて環境を整えることができる	.804	-.076
現在の環境を確認し改善することができる	.776	-.148
気持ちが落ち着く環境を整えることができる	.752	-.092
部屋をみて、人の動線を考えることができる	.748	-.004
一人一人の様子をみながら、全体の様子も把握することができる	.727	-.034
必要に応じて、視覚的な援助をすることができる	.679	.005
子どもの意欲を踏まえて、生活の援助をすることができる	.658	.009
季節に応じた環境をつくることができる	.656	.019
目的に合わせた環境をイメージできる	.630	.169
危険を予測して、環境を整えることができる	.614	.129
保育環境を作るために、見通しを持って段取りを考えることができる	.603	.123
最適な保育環境(明るさ、温度、湿度、ものの配置など)について説明できる	.590	.075
生活しやすい環境を整えることができる	.549	.230
環境をみて、危険を予測できる	.474	.191
美意識(美しいものを美しいと思える)をもち、物の配置の仕方考えることができる	.391	.177
自分自身が保育環境の一部であることを自覚した行動や言葉遣いができる	.356	.172
<b>物の構成</b>		
物を大切に扱うことができる	-.177	.825
使ったものを元あった場所に戻すことができる	-.127	.820
散乱しているところを見つけたら、自分から片付けることができる	-.120	.748
それぞれの場所に合った掃除をすることができる	-.014	.685
手順を考えながら効率的に片付けることができる	.190	.526
子どもの身体を清潔にすることができる	.215	.510
物の整理整頓の方法を説明できる	.187	.462
生活に必要なものをあらかじめ準備することができる	.398	.411

表3 遊びの環境構成尺度の因子分析の結果(最尤法,プロマックス回転)

項目内容	1	2
<b>遊びの展開・援助</b>		
遊び活動がスムーズに進むための段取りと環境構成を考えることができる	<b>.892</b>	-.144
主体的に自由に遊びに取り組みめるように配慮をすることができる	<b>.883</b>	-.134
子どもが自分で遊びを進められるように援助することができる	<b>.879</b>	-.178
遊びのねらいに応じた対応ができる	<b>.879</b>	-.102
遊び活動時に一人一人の様子をみながら、全体の様子も把握することができる	<b>.848</b>	-.170
子どもの発達に応じた遊びを提供することができる	<b>.833</b>	-.056
その時の遊びの状況や子どもの反応に応じて関わることができる	<b>.827</b>	-.185
子どもが主体的に遊びに関わることができるように環境を構成することができる	<b>.782</b>	.012
遊び活動を進めながら、その時の状況に応じて環境を整えることができる	<b>.748</b>	.093
保育教材の特徴を知り、発達に応じた環境づくりができる	<b>.719</b>	.069
探索活動が十分に行えるような環境が整備できる	<b>.702</b>	.131
それぞれの遊びを通して子どもの何が育つかを説明することができる	<b>.701</b>	.067
遊具や用具・素材の特性を知り、運動や遊びを楽しめる環境をつくることができる	<b>.697</b>	.053
子どもの経験や興味関心をふまえた遊びを展開することができる	<b>.682</b>	.189
人の動線を考えて遊びの環境を整えることができる	<b>.676</b>	.126
遊びの中で必要に応じて、視覚的な援助をすることができる	<b>.655</b>	.191
遊びを発展させることができる	<b>.634</b>	.168
子どもたちの遊びの展開を予測しながら、指導案を立案することができる	<b>.581</b>	.161
遊びに興味を持てるような見せ方、話し方ができる	<b>.571</b>	.109
遊びの目的に合わせた環境をイメージできる	<b>.556</b>	.229
遊び活動に必要な準備物を用意することができる	<b>.542</b>	.090
遊びのルールや遊び方などを子どもにわかりやすく説明することができる	<b>.538</b>	.195
子どもの視点にたって、遊びを楽しむことができる	<b>.419</b>	.076
<b>遊びの内容</b>		
各年齢、各季節に適した複数の遊びをあげることができる	-.048	<b>.856</b>
一つの遊びに対して、2つ以上の遊びの方法や種類をあげることができる (例:鬼ごっこ遊びでは、高鬼ごっこ、色つき鬼ごっこ等)	-.040	<b>.742</b>
季節の植物・野菜、小動物を育てることができる	-.061	<b>.717</b>
いつでもできる得意な遊びを持っている	-.193	<b>.681</b>
遊びのための保育技術(絵本のよみかかせ・ピアノ)を身につけている	-.049	<b>.603</b>
身近なものを工夫して遊びを考えることができる	.188	<b>.561</b>
遊びの指導案の作成の基本的な手順を説明することができる	.192	<b>.559</b>
教材研究を行うことができる	.181	<b>.459</b>

表4 対人関係構築尺度の因子分析の結果(最尤法,プロマックス回転)

項目内容	1	2	3
<b>自他の思いの調整</b>			
相手が自分の気持ちや考えを表現するまで待つことができる	<b>.770</b>	-.014	-.145
他者の気持ちや考えを推測し、言語化して代弁することができる	<b>.759</b>	-.146	.112
行為から相手の心情や行動傾向を把握することができる	<b>.758</b>	-.161	.165
さまざまな文化や世代の人と関わりを持つことができる	<b>.702</b>	.018	-.150
異なる複数の考えや思いを客観的にとらえることができる	<b>.693</b>	-.105	.137
様々な考え方があることを受け入れることができる	<b>.563</b>	.315	-.103
非言語的なコミュニケーション(視線、体の向き、距離、声のトーンなど)を意識して関わるることができる	<b>.539</b>	-.025	.132
多様な言葉を用いて声を掛けることができる	<b>.449</b>	.078	.254
相手の思いを受け止めようとする	<b>.427</b>	.401	.026
自分の考えをわかりやすく伝えることができる	<b>.420</b>	.293	.050
自分なりの意見を持つことができる	<b>.408</b>	.126	.075
<b>基本的コミュニケーションスキル</b>			
わからないことがあると、訊ねることができる	-.015	<b>.822</b>	-.022
約束の時間を守ることができる	-.219	<b>.807</b>	.101
進んで挨拶や返事ができる	-.078	<b>.804</b>	-.029
保育者としての身だしなみを整えることができる	-.114	<b>.763</b>	.022
人の話を素直にきくことができる	.096	<b>.689</b>	-.052
心身の健康管理を行うことができる	-.006	<b>.687</b>	-.044
適切な言葉遣いができる	-.043	<b>.679</b>	.139
報告・連絡・相談をすることができる	.043	<b>.633</b>	-.017
人と協力し、活動できる	.106	<b>.564</b>	-.010
相手の気持ちや考えを聞くことができる	.392	<b>.495</b>	-.079
<b>子ども同士の関係づくりへの援助</b>			
自発的に子ども同士が関わるできるよう配慮することができる	-.101	.075	<b>.907</b>
友達と協力して一つのことをやり遂げる遊び環境を整えることができる	-.058	.021	<b>.877</b>
集団の中で力を発揮しながら、友達と共に遊びができるような環境を整えている	-.025	-.019	<b>.870</b>
子ども同士で問題を解決し協力して何かをつくり上げるような配慮ができる	.060	-.108	<b>.832</b>
けんかの場面では、危険がないように注意しながら、子ども同士で解決するような援助ができる	-.039	.051	<b>.825</b>
子ども同士の揉め事に対して適切な関わりができる	.068	.010	<b>.779</b>
子どもが他者の気持ちや考えに気づけるよう、言葉や表情で伝える(表現する)ことができる	.366	.045	<b>.520</b>

## 引用文献

- 別惣淳二・渡邊 隆信・兵庫教育大学教員養成スタンダード研究開発チーム (2012). 教員養成スタンダードに基づく教員の質保証 学生の自己成長を促す全学的学習支援体制の構築 ジェアース教育新社.
- 柏女霊峰 (2011). 保育士の専門性と保育相談支援, 福祉心理学研究, 8, 1, 6-16.
- 倉盛美穂子・渡邊眞依子・津川典子・光本弥生 (2014). 保育者志望学生に求められる専門的力量的の構造化, 日本保育学会第 67 回大会発表論文集, 999.
- 全国保育士養成協議会 (2018). 保育実習指導のミニマムスタンダード 「協働」する保育士養成 Ver.2, 中央法規出版.

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 3件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 倉盛美穂子・上山瑠津子・光本弥生,・渡邊眞依子	4. 巻 9
2. 論文標題 保育者志望学生に求められる専門的力量 実習指導経験のある保育者への調査を通じて	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 福山市立大学教育学部研究紀要	6. 最初と最後の頁 21-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 光本弥生	4. 巻 13
2. 論文標題 保育環境構成力の習得に向けたケースメソッド法を用いた授業実践 - ICT活用の展開事例 -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 広島修道大学教職課程年報修大フォーラム	6. 最初と最後の頁 29-36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 光本弥生	4. 巻 295
2. 論文標題 2018、あの夏子どもたち カウンセラーの方からお話を伺う	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 季刊保育問題研究	6. 最初と最後の頁 68-75
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 光本弥生・中洲良子・長瀬美子・大元千種	4. 巻 299
2. 論文標題 分科会報告 集団づくり（特集 第58回全国保育問題研究集会・報告）	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 季刊保育問題研究	6. 最初と最後の頁 53-71
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森美智代・倉盛美穂子・太田直樹	4. 巻 8
2. 論文標題 小学校入門期の授業における教師と子どもの相互作用の実態：国語科と算数科授業で重視される目標の違いに着目して	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 初等教育カリキュラム研究	6. 最初と最後の頁 49-60
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 渡邊真依子	4. 巻 12
2. 論文標題 ドイツ・ヘッセン州における幼小連携・接続の取り組み	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 生涯発達研究	6. 最初と最後の頁 97-103
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 上山瑠津子・倉盛美穂子・杉村伸一郎	4. 巻 13
2. 論文標題 保育における組織的なリスクマネジメントを通じた環境調整	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 子ども環境学研究	6. 最初と最後の頁 47-53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 0件／うち国際学会 2件）

1. 発表者名 倉盛美穂子・上山瑠津子・光本弥生・渡邊真依子
2. 発表標題 保育者志望学生に求められる専門的力量的構造化（4）
3. 学会等名 日本教育心理学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 倉盛美穂子・長原千香子・森美智代・新開美晴
2. 発表標題 接続期における保育者と小学校教諭の指導観の差異
3. 学会等名 日本発達心理学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 渡邊眞依子
2. 発表標題 ドイツにおけるコンピテンシー志向の幼児教育改革に関する一考察 幼小連携・接続の取り組みを中心に
3. 学会等名 中部教育学会第68回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Rutsuko Ueyama, Mihoko Kuramori, Yayoi Koumoto and Maiko Watanabe
2. 発表標題 Competencies required in Japanese early childhood pre-service teacher education
3. 学会等名 The PECERA 20th Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Mihoko Kuramori, Chikako Nagahara, Michiyo Mori and Miharu Shingai
2. 発表標題 Differences in nursery teachers and elementary school teachers' teaching behavior
3. 学会等名 The PECERA 20th Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年



1. 発表者名 平川 真・上山瑠津子・倉盛美穂子・平田香奈子・杉村伸一郎
2. 発表標題 スリルのある遊びについての価値が遊びの管理に及ぼす影響
3. 学会等名 発達心理学会第28回大会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計7件

1. 著者名 谷口篤・豊田弘司 編著 (第3章 知的発達のメカニズム 担当)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 八千代出版	5. 総ページ数 233
3. 書名 実践につながる教育心理学	

1. 著者名 羽野ゆつ子・竹原卓真 編著 (第5章 学習のありかたは多様である - 学習に関する心理学 担当)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 197
3. 書名 あなたとわたしの心理学 教養として心理学と出会う楽しみ	

1. 著者名 浜崎隆司・田村隆宏・湯地宏樹 編著 (第5章「感情の発達」担当)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 192
3. 書名 やさしく学ぶ保育の心理学 [第2版]	

1. 著者名 久田敏彦監修、ドイツ教授学研究会編(第7章「コンピテンシー志向の幼児教育改革の意義と課題」担当)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 八千代出版	5. 総ページ数 349
3. 書名 PISA後のドイツにおける学力向上政策と教育方法改革	

1. 著者名 清水益治・森俊之編著(伊藤優・乙部貴幸・倉盛美穂子・斎藤多江子・斎藤崇・清水益治・鈴木智子・関口道彦・多田幸子・田中浩司・堀越紀香・三木美香・森俊之・森野美央・若林紀乃)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 中央法規出版	5. 総ページ数 200
3. 書名 子どもの理解と援助	

1. 著者名 藤崎亜由子・羽野ゆつ子・渋谷郁子・網谷綾香 編著(網谷綾香・大倉得史・大橋喜美子・興津真理子・倉盛美穂子・郷式徹・佐藤弥・渋谷郁子・少徳仁・鈴木亜由美・鈴木勇・羽野ゆつ子・平沼博将・廣瀬聡弥・藤崎亜由子・松阪崇久・松本信吾・安田志津香・横山真貴子・吉次豊見)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 242
3. 書名 あなたと生きる発達心理学 - 子どもの世界を発見する保育のおもしろさを求めて	

1. 著者名 羽野ゆつ子・倉盛美穂子・梶井芳明	4. 発行年 2017年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 193
3. 書名 あなたと創る教育心理学 新しい教育課題にどう応えるか	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	上山 瑠津子  (UEYAMA Rutsuko)  (10804445)	福山市立大学・教育学部・准教授    (25407)	
研究分担者	光本 弥生  (KOMOTO Yayoi)  (80280155)	広島修道大学・人文学部・教授    (35404)	
研究分担者	大村 真依子 (渡邊真依子)  (Watanabe Maiko)  (60535285)	愛知県立大学・教育福祉学部・准教授    (23901)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関